

2020年（令和二年）

1月24日（金曜日）

毎週（金）14:00発行

発行所 （一財）日本エネルギー経済研究所
石油情報センター電話（03）3534-7411（代）
FAX（03）3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ11階
ホームページ <https://oil-info.leej.or.jp>

■ 概況

1/9~1/15のNYMEX・WTIは、57.81~59.56ドルの範囲で推移した。

1月16日は、前日の米中貿易協議の第1段階合意文書署名に続き、北米自由貿易協定（NAFTA）に代わる米国とカナダ・メキシコの新貿易協定（USMCA）の合意見通しを好感し反発した。2月限終値は前日比0.71ドル高の58.52ドル。

週末17日は、前日に続き、買いが先行したが、対ユーロでドル高が進行し割高感から売られ、ほぼ横ばい、わずかに値上がりした。16日の国際エネルギー機関（IEA）月報のOPEC12月生産実績2944万b/dに対し20年上期のOPEC需要は2850万b/dとの見通しも市場の圧迫要因となった。ベーカーヒューズ社発表の米国稼働石油掘削機は673基と前週比14基増と4週ぶりに増加に転じた。2月限終値は前日比0.02ドル高の58.54ドル。

20日は、キング牧師生誕記念日で休場。

連休明け21日は、朝方、19日のリビア国営石油からの反政府勢力のパイプライン制圧による出荷停止の発表を受け買いが先行したが、国際通貨基金（IMF）が世界経済見通しで2020年の成長見通しを下方修正したとの報道で売り戻され、結果的に3営業日ぶりに反落した。2月限終値は前日比0.20ドル安の58.34ドル。

22日は、IEAのファティピロール事務局長が、インタビューで2020年上期の原油市場は少なくとも100万b/dの供給過剰になるとの見通しを語ったこと、また、中国のコロナウイルスによる新型肺炎の影響で経済活動の停滞が懸念されることから、大幅続落した。この日から中心限月に繰り上がった3月限の終値は前日比1.64ドル安の56.74ドル。

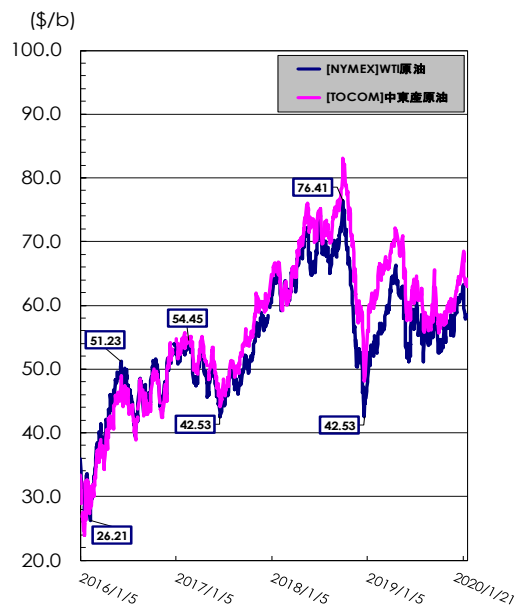
アジアの指標原油である中東産バイ原油/東京市場（3月渡し）は1月9日~15日の間64.70~65.50ドルの範囲で推移した。1月16日64.80ドル、17日64.90ドル、20日65.80ドル、21日64.40ドル、22日64.40ドルで推移した。

為替は1月9日~15日の間109.24~110.16円の範囲で推移した。1月16日109.95円、17日110.33円、20日110.19円、21日110.24円、22日109.91円で推移した。

財務省が1月23日に発表した貿易統計（速報・旬間）によると、12月下旬の原油輸入平均CIF価格は、46,319円/klで、前旬比99円高、ドル建て67.55ドルで前旬比0.17ドル高。為替レートは1ドル/109.01円だった。また同日発表の貿易統計（速報・旬間）によると、12月の原油輸入平均CIF価格は、45,995円/klで、前月比1,586円高、ドル建て67.12ドルで前月比2.21ドル高。為替レートは1ドル/108.94円だった。

そのような中で、1月20日時点の小売価格は、ガソリンが前週比0.5円の値上がり、軽油は同0.4円の値上がり、灯油は同8円の値上がり（18%ベース）だった。ガソリン・軽油が11週連続の値上がり、灯油は6週連続の値上がりだった。この週（1月第3週）の原油コストは値下がりし、次週の元売の卸価格はガソリン・軽油・灯油ともに1.0~1.5円の値下げとなった。

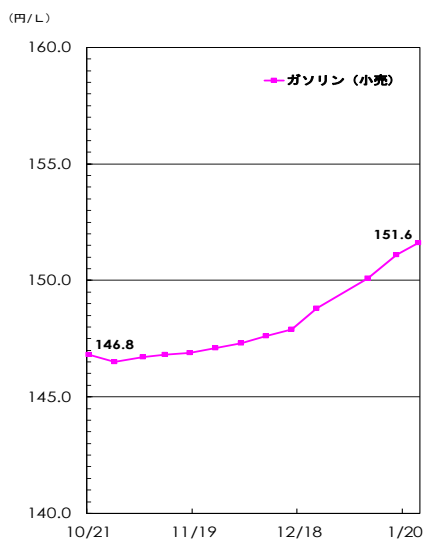
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	1/12 ~ 1/18	3,497 ▼ -10	▼ -
	トッパー稼働率 (%)	"	89.3 ▼ -0.3	▼ -
	原油在庫量 (千kl)	1/18	10,851 ▲ 316	▼ -
価格	中東産原油 (TOCOM) (\$/bbl)	1/20	64.11 ▲ 0.74	▲ 2.2
	WTI原油 (NYMEX) (\$/bbl)	1/21	58.34 ▲ 0.26	▲ 5.8
	原油CIF単価 (\$/bbl)	12月下旬	67.55 ▲ 0.17	▼ -3.84
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	46,319 ▲ 99	▼ -4,483
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	109.01 ▲ 0.05	▲ 4.13
	外国為替TTSレート (¥/\$)	1/20	111.19 ▼ -0.03	▼ -0.52



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	1/12 ~ 1/18	1,009 ▲ 53	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	829 ▼ -62	▼ -	
	輸出	"	127 ▲ 102	▲ -	
	在庫	1/18	1,752 ▲ 53	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	1/14 ~ 1/20	63.5 ▼ -1.0	▲ 9.3	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	1/14 ~ 1/20	58.3 ▼ -1.6	▲ 6.4
		(TOCOM/中部)	1/20	61.0 ▼ -0.4	▲ 6.3
	小売 [週動向] (資工庁公表)	1/20	151.6 ▲ 0.5	▲ 9.1	

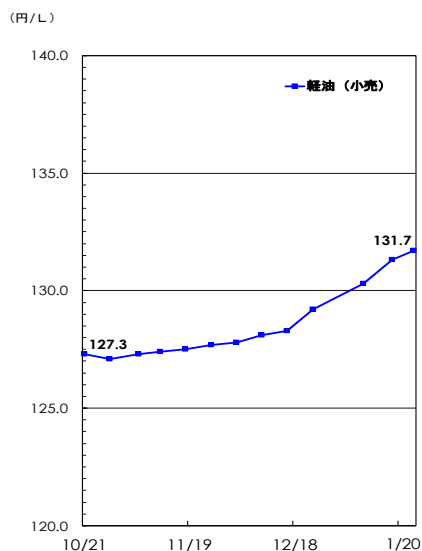
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

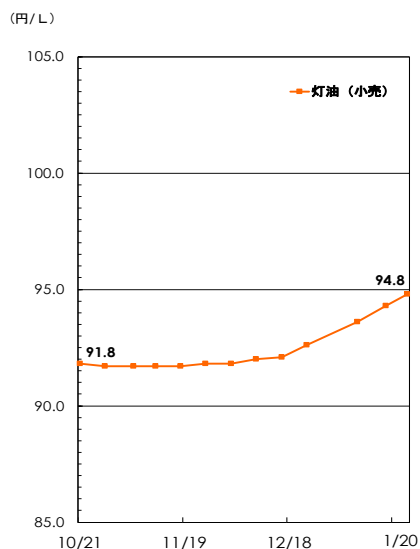
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	1/12 ~ 1/18	679 ▼ -142	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	552 ▼ -77	▼ -	
	輸出	"	213 ▲ 76	▼ -	
	在庫	1/18	1,631 ▼ -87	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	1/14 ~ 1/20	66.5 ▼ -0.4	▲ 8.4	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	1/14 ~ 1/20	67.6 ▼ -0.9	▲ 6.3
		(TOCOM/中部)	1/20	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	1/20	131.7 ▲ 0.4	▲ 8.1	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	1/12 ~ 1/18	409 ▲ 27	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	491 ▼ -83	▼ -	
	輸出	"	42 ▲ 42	▼ -	
	在庫	1/18	2,105 ▼ -124	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	1/14 ~ 1/20	65.9 ▼ -0.8	▲ 7.8	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	1/14 ~ 1/20	62.4 ▼ -1.3	▲ 5.0
		(TOCOM/中部)	1/20	64.1 ▼ -1.3	▲ 3.9
	小売 [週動向] (資工庁公表)	1/20	94.8 ▲ 0.5	▲ 6.1	



■ 関連情報

1 海外/原油

1月22日のNYMEX市場WTI原油は、IEAのファティピロール事務局長が、インタビューで2020年上期の原油市場は少なくとも100万b/dの供給過剰になるとの見通しを語ったこと、また、中国のコロナウイルスによる新型肺炎の影響で経済活動の停滞が懸念されることから、大幅続落した。米国エネルギー情報局(EIA)の在庫週報の発表は、休日の関係で1日遅れの23日となった。この日から中心限月に繰り上がった3月限の終値は前日比1.64ドル安の56.74ドル、4月限の終値は同1.58ドル安の56.76ドル。

EIAによると、1月20日時点のガソリンの小売価格は、前週比3.3セント値下がりの1ガロン2.537ドル(74.4円/ℓ)、

ディーゼルは同2.7セント値下がりの3.037ドル(89.1円/ℓ)となった。ガソリンは2週連続の値下がり、ディーゼルは2週連続の値下がりだった。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、2020年1月12日～1月18日に休止したトッパー能力は7.0万バレル/日で、前週に対して0.0万バレル/日減少した(全処理能力は351.9万バレル/日)。原油処理量は349.7万klと、前週に比べ1.0万kl減少。前年に対しては16.9万klの減少。トッパー稼働率は89.3%と前週に対して0.3ポイントの減少、前年に対しては4.3ポイントの減少となった。

生産は前週に比べてジェット、軽油、A重油が減少し、その他の油種で増加となった。ガソリン/5.6%増、ジェット/20.0%減、灯油/7.1%増、軽油/17.3%減、A重油/7.0%減、C重油/43.8%増。今週のC重油の輸入は0.0万kl(前週比4.0万kl減)。軽油の輸出は21.3万kl(前週比7.6万kl増)。

出荷(輸入分を除く)は、前週比でC重油で増加となり、その他の油種で減少となった。前年比ではジェット、C重油が増加となり、その他の油種で減少となった。ガソリンの出荷は82.9万kl(対前週6.9%減)と2週振りで減少となり、22週連続で100万klを下回った。ジェット7.7万kl(対前週21.6%減)、灯油49.1万kl(対前週14.4%減)、軽油55.2万kl(対前

週12.3%減)、A重油21.5万kl(対前週4.8%減)、C重油17.7万kl(対前週16.5%増)。

(単位:千kl)

	今週 (1/12 ~ 1/18)	前週 (1/5 ~ 1/11)	前週比
ガソリン	829	891	▼ -62 (-7%)
ジェット燃料	77	98	▼ -21 (-21%)
灯油	491	574	▼ -83 (-14%)
軽油	552	629	▼ -77 (-12%)
A重油	215	226	▼ -11 (-5%)
C重油	177	152	▲ 25 (16%)
合計	2,341	2,570	▼ -229 (-9%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

1月18日時点の在庫は、ガソリン、ジェット、A重油で積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。

前年に対してはジェット、灯油で増加となり、その他の油種で減少となった。

ガソリンは175.2万kl、前週差5.3万kl増。前年に対しては5.6万kl少ない。

灯油は210.5万kl、前週差12.4万kl減。前年に対しては0.7万kl多い。

軽油は163.1万kl、前週差8.7万kl減。前年に対しては10.6万kl少ない。

A重油は74.2万kl、前週差0.2万kl増。前年に対しては7.3万kl少ない。

C重油は186.9万kl、前週差3.2万kl減。前年に対しては27.4万kl少ない。

(単位:千kl)

	今週 (1/18)	前週 (1/11)	前週比
ガソリン	1,752	1,699	▲ 53 (3%)
ジェット燃料	863	844	▲ 19 (2%)
灯油	2,105	2,229	▼ -124 (-6%)
軽油	1,631	1,718	▼ -87 (-5%)
A重油	742	740	▲ 2 (0%)
C重油	1,869	1,901	▼ -32 (-2%)
合計	8,962	9,131	▼ -169 (-1.9%)

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

1月14日～20日の原油価格は、前週比で値下がりし、為替円安がこれをやや相殺したが、原油コストは値下がりしたものと見られる。

陸上スポット価格は、1月14日～20日の間、ガソリン116～117円台で値下がり、軽油66～67円台で値下がり、灯油65～66円台で値下がりして推移した。

海上スポット価格は、同期間で、ガソリン119円台で値上がり後値下がり、軽油68円台でわずかに値上がり、灯油63円台で値下がりして推移した。

先物価格は、同期間で、ガソリン111～112円台で値下がり後値上がり、軽油67円台でわずかに値上がり、灯油62円台で出入り後わずかに値上がりして推移した。

次週の元売卸価格は、ガソリン・灯油・軽油ともに、1.0～1.5円の値下げとなった。

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

1月14日～20日の製品スポット市況は、1月7日～13日平均と比べ、海上・ガソリンでわずかに値上がりした以外、他の全油種・全取引で値下がりした。

直近の陸上スポット価格(1/14～1/20、千葉・川崎・中京・阪神の4地区の陸上ラック価格平均値)は、前週比で、ガソリンは1.0円の値下がり、灯油は0.8円の値下がり、軽油は0.4円の値下がりだった。

東京湾渡しの海上スポット平均価格は、前週比で、ガソリンは0.1円の値上がり、灯油は1.2円の値下がり、軽油は0.1円の値下がりだった。

先物価格は、前週比で、ガソリンが1.6円の値下がり、灯油は1.3円の値下がり、軽油は0.9円の値下がりだった。

1月第4週の大手元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、1.0～1.5円の値下がりに分かれた。

(RIM) (単位: 円/%)

[陸上ローリー4地区平均]	今週 (1/14～1/20)	前週 (1/7～1/13)	前週比
レギュラー	63.5	64.5	▼ -1.0
灯油	65.9	66.7	▼ -0.8
軽油	66.5	66.9	▼ -0.4

(TOCOM) (単位: 円/%)

[期近物/終値] [平均]	今週 (1/14～1/20)	前週 (1/7～1/13)	前週比
レギュラー	58.3	59.9	▼ -1.6
灯油	62.4	63.7	▼ -1.3
軽油	67.6	68.5	▼ -0.9

※上記価格は税抜き価格

参考値 (1/14～1/20実績値) (単位: 円/%)

油種	現物	先物	平均
ガソリン	▼ -1.0	▼ -1.6	▼ -1.3
灯油	▼ -0.8	▼ -1.3	▼ -1.0
軽油	▼ -0.4	▼ -0.9	▼ -0.6
A重油	→ 0.0		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

1月20日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前回比0.5円高の151.6円、軽油は同0.4円高の131.7円、灯油は18%ベースで同8円高の94.8円(1%ベースでは同0.5円高の94.8円)。ガソリン・軽油は11週連続の値上がり、灯油は6週連続の値上がりだった。

ガソリンについて、都道府県別には、値上がりが39府県、横ばいが3道県、値下がりが5都県となった。全国最安値は岡山県の146.6円(同0.2円高)、その次に安いのは徳島県の147.4円(同0.3円高)、最高値は長崎県の163.0円(同2.3円高)。最も値上がりしたのは同2.5円高の佐賀県(155.8円)、

横ばいは高知県、石川県と北海道、最も値下がりしたのは同0.2円安の東京都(152.0円)だった。

先週の原油コストは値下がりし、今週適用の大手元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、全社据え置きとなった。今週は、原油価格は値下がりし、為替レートの円安がややこれを相殺したが、原油コストは値下がりした。次週適用の元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、1.0～1.5円の値下げとなった。次回調査時(1月27日)のガソリン・灯油の小売価格は、値下がりが予想される。

(単位: 円/%)

(資工庁公表) [週動向]	今週 (1/20)	前週 (1/14)	前週比	直近高値
レギュラー	151.6	151.1	▲ 0.5	08/8/4 185.1
灯油	94.8	94.3	▲ 0.5	08/8/11 132.1
軽油	131.7	131.3	▲ 0.4	08/8/4 167.4

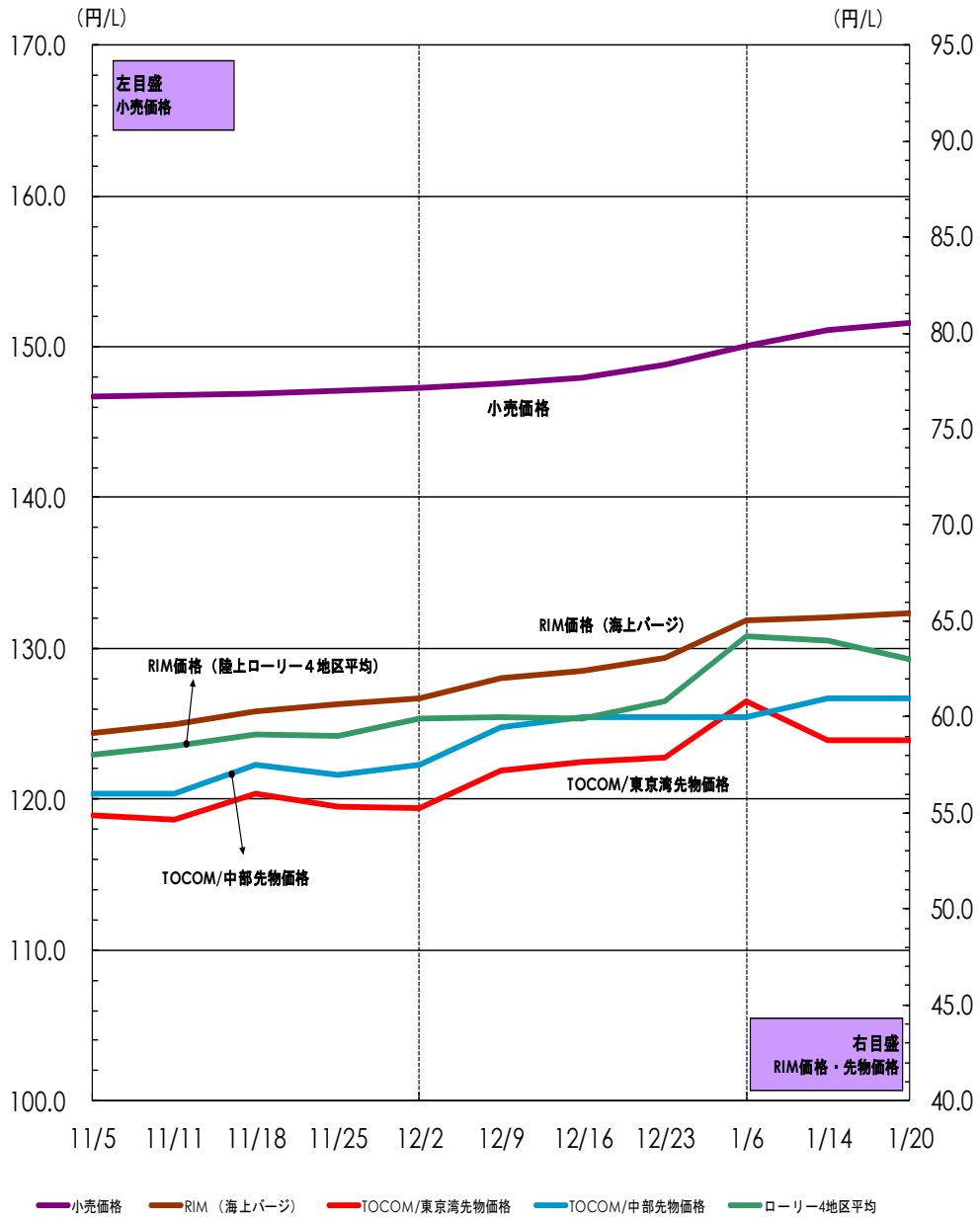
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2019/11/5 ~ 2020/1/20)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。
次回(2019第41号)の公表は、1/31(金)14:00です。

「セルフSS出店状況」(令和元年9月末現在)は、12月25日(水)14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターヘドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。

当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」

中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM (Telegraphic Transfer Middle rate : 中値) を採用。

原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用(いわゆる4RIM価格とは異なる)。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾及び中部石油製品期近物・終値を採用。

TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

⑥【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。原則として、毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁HPに掲載)。